

令和4年度（2022年度）日本肺高血圧・肺循環学会 第2回理事会 議事録

日時：2022年5月6日（金）18:00～19:40

場所：Zoom 開催

出席理事：渡邊裕司、桑名正隆、福本義弘、大郷剛、荻野均、片岡雅晴、小垣滋豊、近藤康博、鈴木拓児、伊達洋至、田中住明、田村雄一、辻野一三、土井庄三郎、福田恵一、室原豊明、安岡秀剛、安田聡、山岸敬幸（19名）

欠席理事：伊藤浩、江本憲昭（2名）

事前送付資料

令和4年度第1回日本肺高血圧・肺循環学会理事会議事録

令和4年度第2回日本肺高血圧・肺循環学会理事会議事予定

参考資料（1）日本肺高血圧・肺循環学会役員一覧

参考資料（2）学会賞について

参考資料（3）委員会の設置について

報告事項

1) 理事長挨拶

渡邊裕司理事長より挨拶

本学会は先生方ご存じの通り、福田恵一先生、下川宏明先生が設立にご尽力された日本肺高血圧学会、日本肺循環学会二つの学会を前身として2016年に両学会が統合されて誕生しました。患者さん、肺高血圧症に関わる医療従事者や研究者にとって最も良い道は何かということ考えた両学会の皆様のご英断とご尽力の結果、誕生した本学会の理事長をこの度、担当させていただくこと、大変光栄に存じますと共に大きな責任を感じております。本学会は、領域横断的に循環器内科、呼吸器内科、膠原病内科、小児循環器科、心臓血管外科、呼吸器外科、薬理学、病理学などの専門家、コメディカルの分野で活躍される方々が参加され、オールジャパンの体勢で肺高血圧症制圧に取り組む特色のある学会となります。今後は、新たなエビデンスを日本から発信し、世界の肺高血圧症患者の治療に貢献できるよう、患者レジストリをはじめとした国内体制の整備を進め、学会賞を通じた若手研究者の育成や研究支援に理事の先生方のお力をお借りしながら取り組んで参りたいと思います。これまでの学会運営は、異理事長のご尽力によるところが大変大きかったと思います。今後は継続的な学会運営が可能となるよう体制の整備と役割の分担を進めたいと考えています。これから2年間微力ですが、日本肺高血圧肺循環学会のさらなる発展のために力を尽くす所存です。引き続き理事の先生方にはご理解ご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い致します。

2) 令和4年度第1回理事会議事録の確認について

理事長が不在ということで、桑名副理事長が議長を務め、選挙で理事長の選出が行われ、次期理

事長が決定した。その後、渡邊新理事長が議長を務め、前理事会から引き継ぐいくつかの課題が確認され、意見共有された。これらの課題について意見交換するため、2022年7月1日の理事会の前にもう一度新メンバーでの理事会を予定し、本日の理事会を開催することとなった。

3) 理事体制について

副理事長は、桑名正隆先生、福本義弘先生に担当していただくことが承認された。

桑名正隆、福本義弘副理事長、大郷剛、荻野均、片岡雅晴、小垣滋豊、近藤康博、鈴木拓児、伊達洋至、田中住明、田村雄一、辻野一三、土井庄三郎、福田恵一、室原豊明、安岡秀剛、安田聡、山岸敬幸理事より挨拶をいただいた。

副理事長（2名）

桑名 正隆 日本医科大学大学院医学研究科 アレルギー-膠原病内科学（2022 会長）

福本 義弘 久留米大学医学部内科学講座 心臓・血管内科部門（2024 会長）

理事（18名）（五十音順）

伊藤 浩（欠席） 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 循環器内科学（2014 会長）

江本 憲昭（欠席） 神戸薬科大学 臨床薬学講座（2023 会長）

荻野 均 東京医科大学 心臓血管外科（2020 会長）

片岡 雅晴 産業医科大学 第2内科学 循環器内科

大郷 剛 国立循環器病研究センター 心臓血管内科部門 肺循環科

小垣 滋豊 大阪急性期・総合医療センター 小児科・新生児科

近藤 康博 公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科

鈴木 拓児 千葉大学大学院医学研究院 呼吸器内科学

伊達 洋至 京都大学大学院医学研究科 呼吸器外科学

田中 住明 北里大学メディカルセンター リウマチ膠原病内科/北里大学医学部 膠原病感染内科学

田村 雄一 国際医療福祉大学三田病院 肺高血圧症センター

辻野 一三 北海道大学大学院医学研究院 呼吸・循環イノベーションリサーチ分野

土井 庄三郎 国立病院機構災害医療センター 小児科（2021 会長）

福田 恵一 慶應義塾大学医学部 循環器内科（2013 会長）

室原 豊明 名古屋大学大学院医学系研究科 循環器内科学

安岡 秀剛 藤田医科大学医学部 リウマチ・膠原病内科

安田 聡 東北大学大学院医学系研究科 循環器内科学

山岸 敬幸 慶應義塾大学医学部 小児科

総則第3条 本会は、主たる事務所を理事長施設に置く に従い、事務局の所在地を浜松医科大学の臨床薬理学講座・臨床薬理内科に置くこととなった。これまで千葉大学で事務局を担当くださっており、この運営については、教授秘書の半田さんにも非常に協力いただいていた。現在巽先生から徐々に引

継ぎを行っている。(渡邊理事長)

4) 各学会賞受賞者について

【2022 年度 八巻賞】

中岡 良和 (国立循環器病研究センター研究所血管生理学部)

「肺高血圧症病態における炎症性シグナルの役割」

【2022 年度学会奨励賞 基礎研究賞】

(1) 石田 秀和 (大阪大学大学院医学系研究科 小児科学)

「多彩な原因に由来する小児肺高血圧症の病態解明及び治療開発に関する多角的研究」

(2) 矢尾板 信裕 (東北大学病院循環器内科学)

「線溶能低下による慢性血栓塞栓性肺高血圧発症機序」

(3) 佐藤 大樹 (東北大学大学院医学系研究科 循環器内科学分野)

「肺高血圧症でみられる肺動脈機能障害の病態解明を目指した新規動物モデルの開発」

【2022 年度 学会奨励賞 臨床研究賞】

(1) 佐藤 隆博 (北海道大学呼吸器内科)

「肺高血圧症における右心機能の解析」

(2) 重城 喬行 (千葉大学大学院医学研究院 呼吸器内科学)

「慢性血栓塞栓性肺高血圧症における腸内細菌叢異常と病態に与える意義」

(3) 中野 嘉久 (名古屋大学医学部附属病院 循環器内科)

「Refined CT プロトコールを用いた急性肺塞栓症発症 1 年後の肺動脈残存血栓の高頻度検出」

【Jamieson CTEPH Award】

最優秀賞

重田 文子 (千葉大学医学部附属病院 呼吸器内科)

「術前可溶性 CD40Ligand は慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対する血栓内膜摘除術の術後予測バイオマーカーになりえる」

優秀賞

伊藤 亮介 (東京医科大学病院 循環器内科)

「肺動脈血栓内膜摘除術の残存肺高血圧症に対するバルーン肺動脈形成術の有効性と安全性」

【YIA Award】は、7 月に行われる学術集会の優秀演題の方々に表彰される。

学会奨励賞の賞金が多いため、少し YIA の方に移す意見が前回あった。賞金 (研究費) を少し分配するということをヤンセンが承諾していただければ、YIA にお金を回すということも可能である。現時点では研

究費という扱いになっている。大学によって違うため、今後先生方と相談させていただいて決めていくべきである。2022 年度までは決まっているため、2023 年度以降については今後検討する必要がある。

(学会奨励賞選考委員長 福本理事)

この賞金については、まだ巽先生から引き継ぎされていないため、今後先生方と相談をする必要がある。この賞の賞金の位置づけは、あくまでも研究助成であると言う事が前回情報共有されている。

(渡邊理事長)

Jamieson CTEPH Award はまだ周知されていない部分があって、応募が少ないが、相応の対象論文が選ばれた。今回 2 回目なのでこれが少しずつ広がっていけばと思っている。(Jamieson CTEPH Award 選考委員長 荻野理事)

5) 2022 年度 日本肺高血圧・肺循環学会学術集会開催に向けて
桑名正隆会長から報告された、

7月2日(土) 3日(日) 京王プラザホテルで対面での開催を予定し準備を進めている。

7月1日(金) 16時から理事会、その後会長招宴を予定している。

7月3日(日) 午前に評議員会を予定している。

6) 2023 年度 日本肺高血圧・肺循環学会学術集会開催に向けて
江本憲昭会長欠席のため、渡邊理事長が代わって報告した。

6月3日(土) 4日(日) 神戸国際会議場での開催を予定している。

副会長 田邊信宏先生 (千葉県済生会習志野病院 肺高血圧センター)

新家俊郎先生 (昭和大学病院 内科学講座循環器内科)

吉藤元先生 (京都大学大学院医学研究科 内科学講座臨床免疫学)

7) 2024 年度 日本肺高血圧・肺循環学会学術集会開催に向けて
福本義弘会長から報告された。

日程は6月1日(土) 2日(日) に対面での開催を予定している。

審議事項

1) 学会のあり方について

- 学術集会での参加費設定

会員・非会員での差額設定の是非

2022 年は同額。来年以降については、会員の方にとって満足度が高く、非会員の方もそれほど負担とならない適正な額について検討していただきたい。(渡邊理事長)

- 日本小児肺循環研究会との合流

2022 年度学術集会は合同開催が決定している。2023 年は調整中であり小児循環器領域の評議員からプログラム委員を推薦している。今後、本学会と日本小児循環研究会の関係をどのように持つべきか引き続き検討する課題である。

第 7 回学術集会を見ていただいた上で、最終決定をしたい。

小児肺循環領域での委員会のようなものを学会の中に立ち上げることを進めていきたい。（土井理事）

- EASOPH との関わり

第一回 EASOPH を開催された Wang 先生がリタイアされたということで、今後の在り方については、2022 年の学術集会に Wang 先生が来日予定のため、その時に Wang 先生のご意向を踏まえて、方向性を検討する。

- 適正な評議員数、および理事数

会則 第 15 条

本会には、次の役員を置く。

理事 20 名程度

監事 1～2 名

評議員 50 名程度

功労会員 原則として定年退任した本学会理事の先生方。

現在は、会員 591 名（医師 530 名）のうち評議員が 61 名。

- ・評議員は会員数の 10%～15%が適正であると言われているため、現在の人数は適正である。
- ・当初は各理事が 2 名の評議員を推薦してきたため、地域制や診療科に極端な偏りがないようにすることができた。
- ・人数の適正というだけでなく、今後評議員をどのような形で新しく選任するか検討する必要がある。
- ・3 年連続欠席すると、評議員を剥奪されるという学会もある。
- ・今後、この領域で頑張っておられる若い先生方が増えてくる場合の循環を考えていくことも必要である。

今回のご提案を踏まえて次回の理事会では、評議員のありかたについて、循環器、呼吸器、リウマチ・膠原病、小児、呼吸器外科、心臓血管外科、それぞれの分野の現状の割合についても、お示ししたい。

（渡邊理事長）

理事については現在 21 名（循環器 8 名、呼吸器 3 名、リウマチ・膠原病 3 名、小児 3 名、外科 2 名、基礎 1 名、会長経験者 1 名）であり、当初の領域バランスを考慮した配分になっている。本来、辞職される先生が同じ領域から理事を推薦することが望ましい。このバランスを尊重し現理事体制を維持することとなった。

2) 学会委員会の設置について

委員および委員会に関する会則 第2条

理事長は、本会の会務を執行するために必要な委員会を設置し、委員会委員は原則として評議員の中から理事長が委嘱する。

会則第3条

理事の選任に関しては総務委員会で推薦し、総会で決定する。肺高血圧・肺循環領域における、臨床・研究業績を総じて判断をする。

会則第4条

委員会には、常置委員会と特別委員会をおく。常置委員会の委員の任期は2年とし、再任を妨げない常設委員会の中に総務委員会を設置する。総務委員会の委員は理事長、副理事長とする。

以上により、今回の理事会で担当委員会を設置することが決定した。

総務委員会：桑名正隆理事

 学術集会 3年先までの会長3名（江本理事・福本理事・2025年会長）

 レジストリ担当 田村雄一理事

財務委員会：福本義弘理事

広報委員会：鈴木拓児理事

八巻賞委員会：安田聡理事

学会奨励賞委員会（基礎）：山岸敬幸理事

学会奨励賞委員会（臨床）：安岡秀剛理事

学術集会 YIA 委員会：田中住明理事

Jamieson CTEPH Award 委員会：荻野均理事

小児循環器連携委員会：土井庄三郎理事

研究倫理利益相反委員会：辻野一三理事

国際交流委員会：大郷剛理事

国内学会連携委員会：室原豊明理事

リエゾン（患者会の対応）委員会：伊達洋至理事

ガイドライン委員会：片岡雅晴理事

専門医検討委員会：福田恵一理事

3) 2025年度 日本肺高血圧・肺循環学会学術集会長について

2022年7月1日の理事会で最終決定をする。

4) その他

現在、理事の先生が全員男性のため、ダイバーシティを考慮し、監事として女性の先生に入っていたく案について、次回の理事会で検討する。